

日本臨床心理学会会員各位

第 21 期運営委員選挙 候補者所信表明について

日本臨床心理学会第 21 期運営委員選挙管理委員

三島瑞穂・西田久美江

向暑の候、皆様にはいよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は学会活動に特別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

3月26日(5月20日訂正)に告示いたしました日本臨床心理学会第21期運営委員選挙につきまして、応募の締切である6月12日までに5名の候補者が確定しましたので、ここにお知らせいたします。

選挙は告示通り、会則第13条、第14条、第15条にもとづきまして、8月10日に開催いたします。各候補者の立候補理由と所信表明は以下をご覧ください。候補者の記載順序はアイウエオ順です。

2013年6月23日

立候補者氏名：金田恆孝

住所： 【註：現住所の記載を選管の決定により削除しました】

〈立候補理由と所信表明〉

日本臨床心理学会運営委員に立候補します。

心理療法をめぐって国家資格化・呼称、医師との関係など、諸団体のエゴなどが錯綜し、現代の心の病をどうとらえ、どう向き合っていくのかという臨床の本質的な議論や研鑽がなおざりにされている感が否めない。

特に、明治政府による「近代化」政策のもとで、古代からの癒しのわざ、「山岳修験者」たちによる療法、シャーマンによる「口寄せ」「狐憑き」等々、綿々と受け継がれてきた、人間性回復・変容のための遺産を、西洋医学の知見だけで切り捨てた罪はあまりに大きいと思われる。

地域性や歴史性、関係性などを切り捨てて、病んでいる部位のみ、分類された病気のみを治療対象とし、エビデンスを競う哲学とは異なる療法があった。近代化によって断ち切られた繋がりを回復させていくことにより、古から流れている「共同の無意識」に近づきながら、「今ここ」における関係の回復とともに模索できる臨床家でありたいと願う。これまで牧師をしながらカルトと呼ばれる熱狂集団参加者との家族カウンセリングなどを行ってきた。先祖は里の民から追われた山の民であり、父は神主。自分自身に布置された課題を解きながら、日本臨床心理学会の中から、日本の地における療法の継承・回復を訴えていきたいと願っている。

立候補者氏名：栗田 修司

所属：龍谷大学

〈立候補理由と所信表明〉

日本臨床心理学会運営委員に立候補します。立候補の理由は、伝統ある本学会運営に参画し、今まで以上に若い力を育て、世界と共に歩む新しい学会となるよう尽力したいからです。

運営委員として選出されたなら、以下の3点に重点を置いて活動します。第1には、学術団体として、学術成果の質および量のさらなる充実を図ります。学会誌「臨床心理学研究」第50巻における刷新という動きを大切にしつつ、投稿数の増加と質の担保について検討を加え、一層改良していきたいと思ます。

第2には、社会福祉学を主たる研究領域としながらも臨床心理学研究に携わってきた者として、本学会の当事者重視の姿勢を堅持し、隣接科学との研鑽および協調の路線に協力します。隣接科学からの会員増を図り、多様な学問からの英知を集められる団体にしたいと思ます。この実現のため、情報通信機器を活用し、会員間の迅速で頻繁な交流と、世界に通じる情報発信を進めたいと考えています。

最後に、会員相互の交流を深め、自由で忌憚のない意見交換を基にして、未来志向による民主的運営を促進します。このためには、本学会の旧来からの体質や制度の刷新を図り、時代に即応し、これからの若い人々に魅力となるような体制作りを心がけたいと思ます。

以上が、所信表明です。どうぞよろしくお願ひいたします。

立候補者氏名：實川 幹朗

所属：姫路獨協大学

〈立候補理由と所信表明〉

日本臨床心理学会第 21 期運営委員に立候補致します。当学会は素晴らしい理念と過去の活動歴を誇りながら、停滞の極みです。原因は、長年の運営慣習が惰性となり新たな時代や状況に即せないことです。外国での大会開催、インターネットの活用、学会独自の資格認定など新しい提案のほとんどは、近ごろ二期からの「新人」が出しました。私も、機関誌印刷の改善、事務委託先の選定、運営委員・幹事の選出方法の適正化、靈的な事柄に絡めた大会企画、他学会との連携、情報公開など、旧弊を破る試みを行ないました。けれども「臨心ではやってこなかった」「時期尚早」「不得意な人もいる」「合意が得られていない」など後ろ向きの理由で反対されます。実現したことで、強い抵抗と闘ってやっとの思いでした。会則に「現状の矛盾をみきわめ、自らがいかにあるべきかを志向しながら、真の臨床心理学を探求する」と謳いながら、古くからの運営委員には現状打破の意欲がありません。新しい人の力を取り入れ自分たちも変わってゆこうとは考えないのです。これからの提案にも、必ず同工異曲の抵抗が出るでしょう。情報を隠したり、事実と反する説明で既存体制を守ろうとする人さえいるのです。同じ顔ぶれが二十年、三十年と運営委員の椅子を独占しては、改革は無理です。自分の感想は学会の意見との、公私混同が起こります。ここに、人事を含む抜本的な改革を目指しての立候補を表明するものです。

立候補者氏名：菅野 聖子

所属：那珂市教育支援センター

〈立候補理由と所信表明〉

第21期運営委員に立候補します。

本年2月、研修委員として公開シンポジウム「“薬漬け”になる子どもたち—「発達障害」をどう捉え、支援するか—」を企画しました。参加者は非会員・学生・家族計39名を含む54名でした。子どもへの向精神薬投与に関する影響性のデータも安全基準もないまま、「発達障害では?」「では病院へ」となり、薬が投与されるという現場での流れは続いています。現場において丁寧に子どもと向き合い、観て、「言葉にならない苦しさ、サインは何か」について、背景を含め理解しようとせず、医療へつなぐ「医療化」の実態は依然としてあります。第21期も、「社会の流れに無批判に順応する臨床」ではなく、社会的視点や生活者の暮らしの視点に基づく、当学会らしい研修の活性化に力を注ぎたいと思います。

また、今期立候補時、第19期運営委員内のメーリングリスト(ML)が適切に運営されなかった実態について委員全員を対象としたアンケート調査を基に報告し、改善したいと表明しました(臨床心理学研究第49巻3号, pp.76-77 参照)。今期は委員間に「メール会議重視・対面会議重視」の二つの志向性がある中、二分法の硬い思考に陥らないよう努めました。が、「ML運用ルール作成グループ」の結成に運営委員会として漕ぎつけたものの、ルール決定に至らなかった現状があります。委員会内部の議論に力を費やすのではなく、上記の研修会のように、学会として「社会的活動・発信」ができるよう努めたいと思います。

立候補者氏名：高島眞澄

所属：社会福祉法人光風会、NPO 茨城県精神障害地域ケア一研究会

〈立候補理由と所信表明〉

私は、第 15 期（2002－2004 年度）運営委員に初めて立候補してから現在まで、運営委員会に関わって 10 年になります。

当時より運営委員会は、会員数や大会参加者数、投稿論文数等の減少を、学会としての存続性を危惧する課題として認識し、学生向けの情宣方法や会費等を見直しながら、何とか大会や「臨心研」発行を中断することなく続けてきました。

この間、学会事務所を何回も移動しなければならない事態にも遭遇しましたが、当時の運営委員長、副委員長、事務局長、編集委員長等の「踏ん張り」で乗り切ってきました。この原動力は、とにかく運営委員同士「よく飲んで、よく議論する」ことに尽きると思います。

臨心大会においては、参加人数は他の学会に到底及びませんが、大会中の懇親会にはほとんどの人が出てきました。顔が見え、初めての人でも話しやすい学会の「場」を、臨心はつくり出してきたのです。これも臨心の歴史です。

私たちの世代が、これまでの臨心の歴史を踏まえてどのように引き継げるか。
第 21 期運営委員に立候補します。